

文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室 文芸OGネットワーク
Tel & Fax 03-3237-2681 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei
代表 高橋 京子 発行：2016.9.24

vol. 25

第13回文芸サロン講座



文芸学部教授 山本聡美先生

九相図からよみとく、女性の身体と信仰

今回は、日本中世絵画史、特に「九相図」の研究をされている、山本聡美先生（文芸学部教授）に、講演をしていただきました。演題は、「九相図からよみとく、女性の身体と信仰」でした。

これだけではお話を聴かれていない方には何の事やらと思われるでしょうから、先生の用意された資料を振り返りながら少し内容を紹介します。

「九相図」とは、僧侶が肉体への執着を断ち切るために「九相観」と呼ばれる仏教の修行に用いられた図像だそうです。その修行は、本来、実物の死体の不浄の様子をよく観察し、腐り、骨になるまでを見届け、そのイメージを静かな場所で精神統一しながらもう一度思い浮かべて、心が乱れてきたら落ち着かせ、それを繰り返して人間の肉体の儚さを思うというものだそうです。死体が白骨になるまでの様子が、九つの段階に分けて描かれている「九相図」は、元来、九相観を行う際に、本物の屍の代わりに用いられる図像であったと推定されるということです。遠くは西域トゥルファンの石窟から6世紀ごろの絵が認められるほど古くからあるもので、日本へは奈良時代には伝来していたようです。

「九相図」に描かれる絵は、女性が段々朽ちて行く図が多いということです。女性が一個の死体となり野辺に投げ捨てられ、時が経つ毎にガスで腹は膨れ、皮膚は崩れ、獣に食い荒らされ、最後はバラバラに散乱した白骨に成り果てる、その様を充分心に刻み、執着を捨てる修行の助けとした図は、鎌倉時代から江戸時代にかけてよく制作されていたもので、多分皆様の中にはどこかでご覧になった方もいると思います。

中世の日本の説話文学には、九相観に関連する話が多

いということです。仏教では女性の肉体そのものが不浄と考えられていましたが、女性が不浄を自覚し、男性の発心を促したという善行によって、女性もまた仏教へ関与する道が開かれるといった読み替えが行われていると先生はおっしゃっていました。「日本で成立した九相観説話の中には、小町をはじめとする、美貌の女性や高貴な女性の死屍がさらされるというシチュエーションが多くある。中世末期には、聖武天皇の後である光明皇后や嵯峨天皇の後である檀林皇后など、仏教との関わりが強い高貴な女性と九相図を結びつける例が多くなり、近世の絵解きに広く利用されるようになる。その背景には、女人教化の目的で九相観説話がだいに喧伝された側面がうかがわれる」と資料には書かれています。

また、鎌倉時代から江戸時代にかけて、「九相詩絵巻」が数多く作られました。本来背景がない「九相図」に和歌の詞書や四季のモチーフが加わるという変化がみられるということです。

江戸時代まで制作されていた「九相図」は、明治を迎え西洋を模範とする美術教育の中で、次第に忘れ去られていました。しかし、近年、改めて現代の九相図を発表している若い画家ができています。

数々の作品をプロジェクターで見せてくださり、丁寧な資料を用意してくださって、予定の時間を少し過ぎるくらい内容の濃いお話をうかがうことができました。



狩野永納「九相詩絵巻」第六段 青瘀相
慶安四年(1651) 佛道寺(住職家)蔵

文芸OGネットワーク総会

平成 28 年度の文芸 OG ネットワーク総会が 6 月 4 日 (土) に本館 1 階 108 号室にて開催された。参加者は 44 名であった。

定期総会は午前 11 時より川瀬治子氏の司会で進められ、はじめに代表の高橋京子氏の挨拶があった。

(1) 会報、劇芸術関連の資料整理、共立祭、文芸サロン講座、在学生支援について、各担当者が平成 27 年度の活動を報告し、今年度予定される活動について説明した。平成 28 年度も共立祭に参加することが決まった。

(2) 平成 27 年度収支決算が会計より報告され、会計監査から相違なしとの報告があった。

平成 28 年度予算が提示され、承認された。

第 13 回文芸サロン講座は、総会后、昼食をはさんで、午後 1 時半より開催された。今回は文芸学部教授山本聡美氏を講師としてお迎えした。演題は「九相図からよみとく、女性の身体と信仰」であった。



劇芸術資料室から

昨年 (平成 27 年) 秋の共立祭でおこなった「日本のミュージカル展」準備中に、富山におけるミュージカル連続公演を知ったので、すこし詳しくお伝えしたい。

富山オーバード・ホールは、1996 年に設立された富山市芸術文化ホールであるが、ここで最近 5 年間にわたっておこなわれた「名作ミュージカル連続上演シリーズ」のラインアップがすばらしい。『回転木馬』(2011) から始まり、『ハロー・ドーリー!』(2012 日本初演、2013 再演)、『ミー&マイガール』(2013、2015)、『ショウ・ボート』(2015 日本初演) と続いたのである。日本初演が 2 作品もふくまれ、とりわけ東京芸術劇場でも上演された『ハロー・ドーリー!』は、その年のミュージカル専門誌ベストテンで作品部門 2 位、女優部門では剣幸が 1 位に選出されるという快挙を成し遂げている。全公演で主役をつとめた剣幸は、富山工業高校から宝塚歌劇団に入団したという経歴の持ち主。宝塚における『ミー&マイガール』の初演で主人公ビルを演じた、80 年代

の男役トップスターである。剣幸の存在も大きいですが、このシリーズ公演の特色の一つはワークショップに参加した市民や地元の高校生が公演に参加したことにもある。『ミー&マイガール』のアンコール公演 (2015) は「プロと地元アマチュアと一緒に舞台を創るケースも全国に稀なら、地元発を前提にしてこれほどレベルの高い舞台を見せてくれるケースもない」(演劇評論家・萩尾瞳、『mite mite』by オーバード・ホール、2016、vol.47) と絶賛された。

このミュージカル公演の資料を寄せてくださったのは富山在住の松島良子さん (S 35 卒) である。松島さんからは貴重なパンフレットも寄贈していただいた。厚くお礼申し上げます。

多田久恵 (S 45 院卒)



『mite mite』(2016 Winter Vol.47) (上)表紙、(下)「ミー&マイガール」舞台



女性の自立と社会的地位向上をめざす建学精神のもと、今年で130周年を迎えた共立女子学園。学び舎を築いたあと、仕事を通じ、様々なシーンで共立 spirit を放っている OG を紹介していきます。

file1 百瀬好子

Yoshiko Momose

第一回目は、文芸 OG ネットワーク初代代表でもある百瀬好子さん（昭35卒）です。卒業後、定時制高校の教師→旅行会社の経営→大学・専門学校での講師といった異色の経歴をお持ちのバイタリティー溢れる大先輩に編集部の高橋京子がお話を伺いました。

——卒業後の就職先が定時制高校というのは、当時としては珍しい選択ですよね？

そうですね。卒論で「正宗白鳥論」を取り上げたことで、近代文学への興味がいっそう深まり、もう少し勉強してみたくなったのです。それで昼間は共立の文学芸術研究所に通いながら、経済的自立のため、夜は定時制高校の教師という道を選びました。

——その後、起業されるわけですが、なぜ旅行業だったのでしょうか？

いろいろ思うところもあり、定時制高校に勤務して10年経った34歳のとき（昭和44年）に旅行会社を始めました。なぜ旅行業かという、資本も少なく在庫も持たずにできる、当時は旅行業を営む場合、登録だけ取ればよく、商取引に際して資格は不要だったこと、学生時代から旅好きだった、という理由からです。

——起業することへの不安はなかったのですか？

なかったですね、それよりも転機のチャンスと捉えました。ところが起業して2年後に旅行業法の改正があり、一般旅行業務取扱主任者（現在は総合旅行業務取扱管理者）の資格が必須となり、猛勉強しました。ここで生半可では生き残れないぞと、心を決めました。この頃、毎年のように海外への旅行者も増え始めていましたので、ツアーコンダクターの資格も取得し、添乗員として国内、海外へと出掛けていました。

——当時は女性の経営者は少なかったと思いますが、仕事上、やりにくいと感じたことはありませんでしたか？

女性であることを意識することはなかったように思います。それに色気のあるタイプではありませんしね（笑）、男性とも対等に付き合いました。まじめに、誠実に。やはり仕事は信用が第一ですから。

——経営者としてのご苦労は？

経営が安定していないといい人材も採用できないので、営業も企画も誠実に取り組み、経営母体の安定をつねに意識していました。パッケージツアーの企画から商品づ

くり、添乗、精算、と分業せず、一貫して行えるのが小さい会社の強みです。その強みを前面に出し、お客様の声を生かしたツアー商品は好評で経営は割とうまくいってました。

——仕事上の忘れられないエピソードを聞かせてください。

旅行にアクシデントは付き物です。旅行先でお客様が行方不明になったり、旅館に着いたらダブルブッキングだったり、手配したバスが来なかったり、シンガポールに行った在日の外国人のお客様が危うく強制送還されそうになったり、いろんなことがありました。でも、とにかくその時その時、一生懸命にやるしかないんですね。その積み重ねだったように思います。

——その後も経営者として旅行業を続けられたのですか？

両親が体調を崩したことをきっかけに、会社を閉じました。経営者としては17年間でした。その後は、観光関連の専門学校や大学の非常勤講師として再び教壇に立ち、その間、山形放送の旅行情報を届けるラジオ番組に出演するなど、様々な経験をさせてもらいました。

——では最後に共立の後輩へメッセージをお願いします。

興味を持ったことは何でもやってみてほしい、ためにならない経験はないですから。一つアドバイスをするとしたら、日本は資格社会なので、できればあまり人が持っていないライセンスを取得しておくと思えます。私もここまで教師と旅行業の資格を活用してやってこれたと思えます。もうひとつは仕事以外のところで、たとえば趣味でもボランティアでもいいのですが、勉強したり、活動したりする場をもつことが大事ではないかと思えます。私は日本舞踊を50年以上やってきましたが、70歳の時に修士課程に入り、改めて日本舞踊研究を目指しました。現在、体調不良で中断していますが、これからも続けたいと思っています。私にとって日本舞踊はパワーの源です。

——ありがとうございました。



連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々⑪ —

今回は、卒業後も助手としてご活躍された、14期生の石井美津子さんに書いていただきました。



私の実家は、“権現堂の桜”で知られる埼玉県東部の田舎町にあり、当時大学までの通学時間は約2時間。毎朝6時過ぎに家を出たが、大学生生活の始まりと都会へ通える喜びで長い通学時間も全く苦にならなかった。

1年次は名前の五十音順でクラスが分けられ、約半分が地方出身で、いつもバラエティに富んだ話題で盛り上がっていた。親しくなった友人との初めての旅行が軽井沢寮だったが、偶然にも鳩山薫先生にお会いし、別荘の広いお庭でお茶をいただいたことは忘れられない思い出となっている。

2、3年次、英文コースに進んだ私はたくさんの専門科目の予習に日々追われたが、初めて洋書を手にした時は少し誇らしく大学生になったことを実感した。演習授業で本格的な英詩に出会った時の感動は今も記憶に残っている。特にロマン派詩人のワーズワース、シェリー、キーツなどの詩はなじみやすく試験前にはひたすら暗誦した。何より小川和夫先生の流暢な詩の朗読は本当にすばらしかった。

一方で私はアルバイトで英語教室を始めることになった。歳の離れた姉から中1の息子に英語を教えて欲しいと頼まれたことがきっかけだ。その頃、田舎ではまだ珍

しかったので生徒は口コミでどんどん増え、週3日姉の家に通い子供たちに英語を教えた。そのためサークルに入ることは残念ながらあきらめたが、この時の経験のちに私の仕事に大いに役立った。

4年次になり卒業のための準備が始まった。私は卒業ではなくそれに代わる4回の試験を選択したが、教職課程の仕上げである教育実習に力が入り、卒業試験はかなりの低空飛行だったと思う。それでも何とか卒業にこぎつけ、その後幸いにも2年間助手として大学にお世話になり、学生時代にはほとんど知ることのなかった劇芸術、造形芸術の先生方や先輩たちと親しく交流させていただいたことはとても有意義であった。

時を経て、今年5月に私の家（千葉県流山市）の近くの完成間もない体育館で大学バレーボール関東リーグ予選大会があり、思いがけず坂口監督（坂口麗衣先生）率いる共立バレー部の試合を観戦し応援することが出来た。若さあふれる後輩たちの懸命にプレイする姿を間近に見て感動と元気をもらい、学生時代をなつかしく思い出した。

石井美津子（旧姓：関口）（S45卒）

広場

*川崎照代さんの新作、舞台に

劇作家としてご活躍の川崎照代さん（S44卒）の新作『春疾風』が、文学座の公演で、2016年3月12日～21日、新宿・紀伊國屋ホールにて上演された。

作品は、壊れかけている家族に再生の光が当てられる物語。

*講演会のお知らせ

「古代丹後研究会／つくば」を立ち上げた佐藤和代さん（S41卒）の主催する講演会が開催されることになりました。



演題 ^{あまべし}海部氏系図に秘められた卑弥呼
講演者 古代丹波歴史研究所 所長 伴とし子氏
日時 平成28年11月28日（月）14：00～
場所 文京シビックホール（小ホール）

掲示板

INFORMATION

共立祭参加

展示とバザーを開催します。

日時：2016年10月15日（土）、16日（日）

会場：共立女子大学本館 1202号室

展示：「忠臣蔵」展

～『仮名手本忠臣蔵』を中心として～
ぜひお出かけください！

*会場では、バザーも開催します。バザーの品をご提供くださる方は、当日会場でも受け付けます。

編集後記

EDITOR'S NOTE

今回記載の「文芸サロン講座」は、6月4日に開催されましたが、予定されていた講師の先生のご都合が悪くなり、代わって山本聡美先生を講師にお迎えしました。お話は内容が濃く、興味深いものでした。(O)